

事例⑨

障がいのある児童が、
見通しをもって意欲的に学習に取り組む活動の工夫

授業づくりの視点

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 音楽に苦手意識のある児童生徒が、器楽演奏に対して前向きに取り組めない。
- コミュニケーションに課題のある児童生徒への支援の方法が分からない。

ファーストステップ！

◆例えば、「音楽科」で、こんなことからはじめてみましょう。

□ 音楽科「ひびき合いを生かして」 □ 小学校 □ 特別支援学級（知的障がい・自閉情緒障がい・言語障がい）

本時の目標 ・曲の特徴にふさわしい表現を工夫することができる。

ファーストステップ②

- ・ 階名のシールを貼ったり、楽譜に印を付けたりしましょう。
- ・ 児童の実態に応じて、反復練習や曲のテンポに配慮しましょう。



	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 発声練習 ○ 階名で校歌・カノンを斉唱 ○ 課題の確認	・ <u>大型テレビを使用し、T1が本時の学習の流れを提示する。</u>
展開	○ 演奏グループと演奏順を確認 ○ <u>全体で部分練習</u> ○ <u>グループ練習</u> ○ 通して合奏 ○ 合奏を録音	・ 意欲的に活動ができるように、<u>T2が楽譜の演奏箇所を指し示すなどの支援をしたり、曲のテンポに配慮したりする。</u>
終末	○ 振り返り ・ <u>録音した合奏を聴き交流する。</u> ・ <u>次時の学習課題を見付ける。</u>	・ 自分たちの演奏を聴くことにより、次時への学習課題を見つけさせる。

ファーストステップ①

- ・ 児童の学習状況に応じて、T1やT2が個別に支援を行いましょう。
- ・ 児童の課題に応じて意図的なグループ編制をしましょう。



ファーストステップ③

- ・ 次時の学習に向け、自身の課題を明確にして、主体的に活動するために、他の児童の感想等を聴いたり、録音等で振り返ったりする活動を設定しましょう。